

(1) 日本人小児の野菜摂取を促す教育プログラムに関する研究における報告の質に関する系統的レビュー

栄養学科 岩部万衣子

研究背景・目的

我が国では、CONSORT声明(2001)に基づき作成された栄養・食生活に関わる介入研究の報告の質を判断するチェックリスト(川崎ら, 2011)(以下, リスト)がある。本研究では, このリストを2010年改訂の同声明に基づき改編し, 以下の検討を行った。

- ①小児の野菜摂取を促す食教育に関する論文の報告の質に違いがあるか。
- ②このリストは川崎らの研究で分析対象とされていなかった同分野の論文(①の論文)の報告の質を判断する際にも適用可能か。

研究方法

データベース(医学中央雑誌, CiNii, PubMed)検索とハンドサーチ(栄養・食・小児に関する17誌)により, 2003~2012年刊行の目的に合致した論文を採択した。川崎らのリスト34項目を39項目に改編し, 記述が必要と考えられる項目がどの程度各論文に記述されているかを得点化し, 研究デザイン別, 雑誌区別に比較した。

研究成果

採択論文29件中, 非無作為化比較試験(non-RCT)6件, 前後比較研究17件, ケースシリーズ5件, 複数のデザインを含む研究1件であり, 査読のある雑誌20件, それ以外9件であった。全29論文では, リスト39項目(計47点)の項目記述数得点の平均は24(範囲10~40)点であった。研究デザイン別ではnon-RCT, 前後比較研究, ケースシリーズの順に, 雑誌区別では査読のある雑誌で項目記述数得点は高かった。リストは, 小児の食教育に関する論文にも適用可能であり, 研究デザインや雑誌区分によって報告の質が異なることを数値として示すことができた。

表1. 本研究のチェックリストと判断基準(川崎らのチェックリストに基づき改編)

見出し	川崎らのチェック項目	本研究におけるチェック項目
タイトルと抄録	1. タイトル・抄録 2. 研究デザインの記述	1. タイトル・抄録 2. 研究デザインの記述
はじめに	3. 理論モデル	3. 理論モデル
目的	-	⁺ 4. 目的
方法	4. 参加者の適格基準 5. 募集方法 6. セッティング・場所 7. 介入期間・介入回数 8. 介入実施者 9. 介入時間 10. 介入実施の単位 11. 対照群への介入 [†] 12. 目的 13. プライマリエンドポイント 14. 測定方法 15. 症例数 16. 割付け方法 [†] 17. マスキング [†] 18. 統計学的手法 19. 統計ソフトウェア -	⁺ 5. 参加者の適格基準 6. 募集方法 ⁺ 7. セッティング・場所 ⁺ 8. 介入期間・介入回数 9. 介入実施者 10. 介入時間 ⁺ 11. 介入実施の単位 12. 対照群への介入 [†] -(4.へ移動) ⁺ 13. プライマリエンドポイント 14. 測定方法 ⁺ 15. 症例数(サンプルサイズ) 16. 割付け方法 [†] 17. マスキング [†] 18. 統計学的手法 ⁺ 19. 欠損データの取扱 20. 統計ソフトウェア ⁺ 21. 倫理的配慮
結果	20. フローチャート 21. 介入者数 22. 脱落の理由 23. 募集期間・追跡期間 24. ベースラインデータ 25. ベースラインにおける同等性 [†] 26. 解析人数 27. 脱落者への対応 28. アウトカムと推定 29. 補助的解析 30. 有害事象	⁺ 22. フローチャート 23. 介入者数 ⁺ 24. 脱落の理由 ⁺ 25. 募集期間・追跡期間 ⁺ 26. ベースラインデータ 27. ベースラインにおける同等性 [†] 28. 解析人数 ⁺ 29. 脱落者への対応 ⁺ 30. アウトカムと推定 31. 補助的解析 32. 有害事象
考察	31. 解釈 32. 一般化可能性 33. 全体としてのエビデンス	⁺ 33. 解釈 34. 一般化可能生 ⁺ 35. 全体としてのエビデンス
倫理的配慮	34. 倫理的配慮	-(21.へ移動)
-	-	⁺ 36. 利益相反
構造化	-	⁺ 37. 本文の構造化 ⁺ 38. 抄録の有無 ⁺ 39. 抄録の構造化

[†]比較対照試験(RCT, non-RCT)の場合のみ, ⁺本研究において改編した項目

[‡]本研究において新たに追加した項目, 下線部は具体的な改編箇所